



中国日本商会

今どきコラムー107

中国雑談

### 南通が「兆元クラブ」の仲間入り

ここ数年、江蘇省南通市に行くと、最初は父の故郷である崇明島の方言と似ていると感じ、何を言っているのかは分からなかったものの、ちょっとした親近感を抱いた。今では行くたびにそこの変化を感じている。2021年1月、ニュースで南通市の経済規模が1兆を突破したと聞いても特に驚かず、来るべきものが今来たのだと思った。

中国各地の状況から見ると、南通が「兆元クラブ」に入った後、江蘇省では4つの都市がその中に加わっている。蘇州（2兆170億元）、南京（1兆4800億元）、無錫（1兆2370億元）、そして南通（1兆36億元）で、数の上からいうと広東省（深圳・広州・佛山）を超えている。しかし広東の東莞（2020年は9650億元）が猛烈な勢いで追いかけており、「兆元クラブ」に入るのは時間の問題だ。省の経済総量から見ると、広東省（11兆800億元、1億1521万人）は江蘇省（10兆2700億元、8070万人）の経済総量よりも1兆元近く多いが、人口も3450万人多く、一人当たりGDPでは江蘇省のほうが少し高い。

南通の急速な発展には立地の強みがある。ここは言葉が上海と似ていて（筆者が聞く限り、上海方言と崇明や南通の方言はとても近く、蘇州や杭州の言語系統とは完全に異なる）、さらに上海にとっても近いため、上海の自然経済圏の中の一都市となっている。ここ数年の交通の発達の後、高速鉄道あるいは車を運転して南通に行くのがとても便利になった。上海では経済発展が成熟段階に入った後、自然と周囲へ波及していった。最初は多くの企業が蘇州や無錫に行き、さらにその後には南通や常州へと向かった。南通はこうした時に発展し始めたのだろう。



さらに、南通はもともと中国で一番早く開放された 14 都市の一つだ。長江がここを流れているため、蘇州や無錫とは異なり、臨海都市であり、「黄金水道」と「黄金海岸」を一身に集めている。筆者は中国三大経済圏のうち、経済規模の成長潜在力から見ると、長江デルタ地帯が最大で、それに次ぐのが珠江デルタ地帯で、三番目が北京・天津・河北であると考えている。南通は最も発展の潜在力をもつ長江デルタ地帯にあり、今後も続けて発展していくのに大きな問題はないと思われる。

唯一残念なのは、南通を蘇州・南京および無錫と比べると、ここには良く知られた大学がないことだ。大学がない場所で、研究開発やイノベーションをどのように進めていったらよいのか？ 高度最先端技術をもつ労働者をいかに現地で育成していくのか？ これらは南通市が急いで解決する必要のある問題となっている。

日本企業（中国）研究院 執行院長

[chenyan5931@163.com](mailto:chenyan5931@163.com)